

RNA 染色用試薬 T-Fluor 480

T-Fluor 480 [for RNA staining]

1g 6,000円 [T4072]

特長

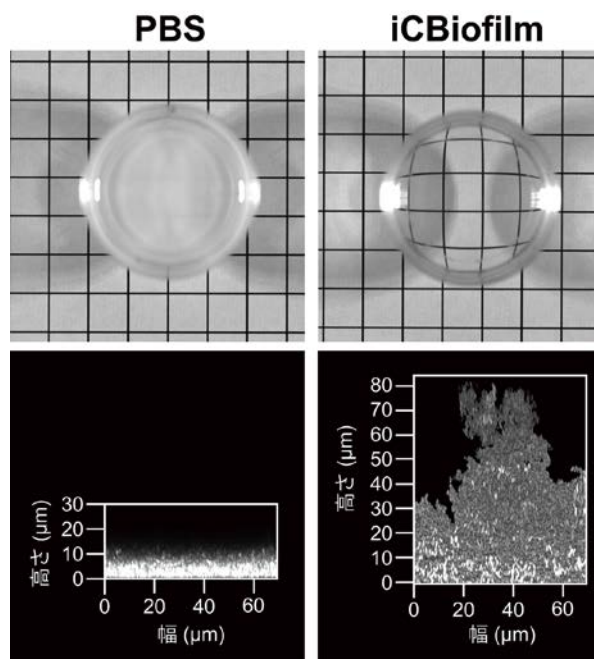
- 大腸菌等の細菌中に存在するRNAを染色可能
- RNAを染色した際の極大励起波長 450 nm、極大蛍光波長 485 nm
- 蛍光強度が非常に高く、染色後に洗浄なしで観察可能
- RNA染色試験済み

利用例：透明化したバイオフィルムのRNA観察

【手順】

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) をガラス底ディッシュで24時間静置培養し、バイオフィルムを形成させる。
2. 培養液と浮遊細菌を取り除き、固定し、洗浄する。
3. 8 µg/mL の T-Fluor 480 溶液 in PBS を加えて室温で30分間染色する。
4. PBS またはバイオフィルム透明化試薬 iCBiofilm-H1 [T4031] を添加し、観察する。

ディッシュ
画像

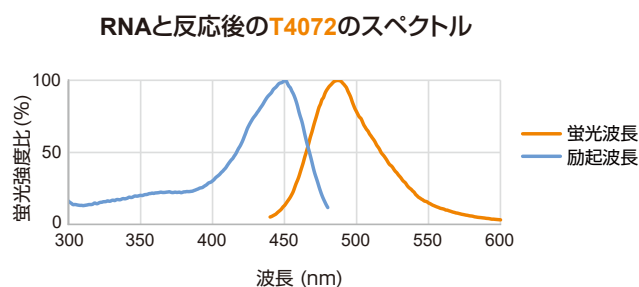
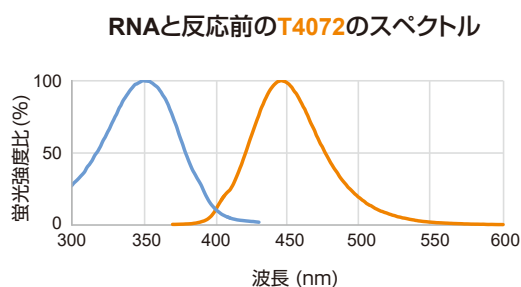


共焦点
顕微鏡画像

(画像は杉本真也先生ご提供)

iCBiofilm-H1 の添加によりバイオフィルムは透明化され、深部のRNAが観察されました。

蛍光スペクトル



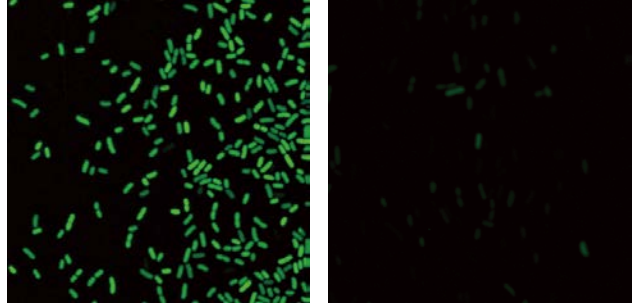
利用例：T4072を用いた大腸菌のRNA染色

【手順】

1. 大腸菌 BW25113 株を LB 培地、37°C で一晩培養する。
2. 翌日、100 µg/mL リファンピシン(※)入り、またはリファンピシン抜き LB 培地に前日培養した培地の 1/100 容量を添加し 37°C で 4 時間培養する。
3. 遠心分離操作で上清を除いた後、ペレットに 6.5 µg/mL の T4072 入り PBS 溶液を添加し、室温で 5 分間染色する。
4. GFP 用のフィルターを用いて蛍光顕微鏡で観察する。(右写真)

※リファンピシン：RNA 合成阻害物質

蛍光画像



リファンピシン (-)

リファンピシン (+)

(画像は杉本真也先生ご提供)

RNA 合成が阻害されていないリファンピシン (-) 培地では RNA が染色されていることが確認されました。

関連製品

Rifampicin
Clearing Reagent iCBiofilm-H1 [for Biofilm]

5g 7,900円 / 25g 23,800円 [R0079]
8mL 9,000円 [T4031]

東京化成工業株式会社

試薬製品について

- 本社営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 16-12 T-PLUS 日本橋小伝馬町8階
Tel: 03-3668-0489 Fax: 03-3668-0520 E-mail: Sales-JP@TCIchemicals.com
- 大阪営業部 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 1-1-21 第2中井ビル1階
Tel: 06-6228-1155 Fax: 06-6228-1158 E-mail: osaka-s@TCIchemicals.com

スケールアップ、受託サービス(合成・開発・製造)について

- 化成品営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 16-12 T-PLUS 日本橋小伝馬町8階
Tel: 03-5651-5171 Fax: 03-5640-8021 E-mail: finechemicals@TCIchemicals.com

弊社製品取扱店

本誌掲載の化学品は試験・研究用のみ使用するものです。化学知識のある専門家以外の方のご使用はお避けください。品目や製品情報等、掲載内容の変更を予告なく行う場合があります。内容の一部または全部の無断転載・複製はご遠慮ください。